

## 平成20年度広大マスターズ市民講座報告 子と親のための「野っ原探検講座」第1回

宗岡 洋二郎

自然との接し方を親子で楽しく学んでもらおうと、フィールドで活動してきた4人のマスターズ会員が川や原っぱ、山で4つの講座を企画しました。第1回は宗岡洋二郎会員が指導する「ホタルの川の探検とナマズ捕り」（8月24日（日））、8組の親子22名を含む28名が志和の里で楽しい一日を過ごしました。

午前中は宗岡先生から魚の体色変化やホタルの生態・発光のお話と実験。暗くした会場で、子供たちがコップの水に溶かしたホタルの蛍光色素、酵素、ATPを混ぜるとコップが明るく輝き、どよめきが起こりました。昼食後は近くの小川に出かけ、宗岡先生から魚の捕り方の手ほどきを受けた後、高学年の子は腰まで水につかりながら関川で、低学年の子は半川などの浅瀬で魚とりに挑戦しました。ナマズこそ捕れませんでした。体長30cmほどのコイや6種類もの魚、エビ、昆虫を捕まえるなどして皆大喜びでした。

3時近くに会場の志和堀公民館に戻ったら、地元のご婦人方が用意してくれたごちそうが待っていました。前日に宗岡先生が釣った体長60cmものナマズのから揚げ、志和のお米のおむすび、地野菜のてんぷらなど盛りだくさんの料理がきれいに皆のおなかにおさまりました。昼食から3時間も経っていないのに外で遊ぶとおなかですくのですね。初めて出会った子供達も親たちも皆すっかり仲良しになっていました。

9月14日の第2回講座での再会を約束して3時半ころ散会しました。宗岡先生、生涯学習課の倉田さんと馬場さん、アシスタントを務めてくれた総合科学部学生の高木さんと名古屋さん、楽しい一日をどうもありがとうございました。（安藤忠男記）



野っ原探検講座第1回講師の宗岡洋二郎先生



関川の浅瀬で魚とり開始



高学年の子供たちは関川で魚とり



志和の里を流れる関川と半川(手前)



全身ずぶぬれで魚をとったり泳いだり



親子でナマズのから揚げ(右下)、おむすび、  
てんぷらに舌つつみ